

A Report on the Three Week English Study Abroad Program for Health Sciences Students

吉村紀子（静岡県立大学）・中山峰治（オハイオ州立大学）

近年、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドで実施されている日本人大学生のための海外英語研修は増加している。しかしながら、理系学生、特に理系大学院学生のための海外英語研修はほとんど行われていない。そこで本稿では、3週間の海外英語研修プログラムが理系大学院学生の英語力の向上にどのような影響を及ぼすのかについて報告したい。

本論で採りあげる海外英語研修は、静岡県立大学の健康科学分野の博士課程に在籍する理系大学院学生のためにオハイオ州立大学アメリカン・ランゲージ・プログラムに特別注文した集中英語プログラムで、教室での授業、特別講義、チュートリアル等を通して統合的に英語を学習し、オーラルプレゼンテーション能力の向上を目指した。参加した大学院学生の英語力向上を測定するために、Michigan Test of English Language Proficiency of the Institutional Michigan English Language Assessment Battery (MTELP) と Institutional Test of Written English (ITWE) を研修前後に実施した。なお、前者は語彙・文法、リスニング、リーディングのテストで、後者は所定のトピックについて自由に書くエッセイライティングである。

上述にあるように、この英語研修はテストスコアを伸ばすために企画されたものでなく、また研修期間も今回は短かったので、MTELP スコアの上昇は期待していなかった。但し、これまで実施した国際関係学部生のための短期海外英語研修において ITWE に顕著な向上が見られたので、同様な結果が得られるのではないかと期待した。分析の結果、予測通り、MTELP に伸びは見られなかった一方、ITWE には注目に値する向上が見られた。このことから、「オーラルプレゼンテーションに焦点を絞った短期海外英語研修は、ライティング能力の向上に貢献できる」と結論付けることができる。すなわち、オーラルプレゼンテーションの練習は考えを手短にまとめると共に、一貫性を以って論旨を展開していく英語力の養成に役立つことが実証されたことになる。